

東海大学医学部付属病院 広報誌

医療連携通信

2025
7

特集

● 東海大学医学部付属病院 新任教授紹介



東海大学医学部付属病院

新任教授紹介

今年度、東海大学医学部付属病院には9名の新任教授が就任いたしました。各教員が所属する診療科の強みや今後の方針、地域の医療発展に向けた抱負などをご紹介します。

CONTENTS

消化器内科 教授

岩崎 栄典

p2

腎内分泌代謝内科 教授

豊田 雅夫

p2

リウマチ内科 教授

奥 健志

p3

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授

和佐野 浩一郎

p3

東洋医学科 教授

野上 達也

p4

歯科口腔外科 教授

青木 隆幸

p4

臨床腫瘍科 教授

西田 尚弘

p5

小児科 教授

山本 将平

p5

病理診断科 教授

眞杉 洋平

p6

新センター紹介

p6

胆膵疾患の拠点病院として 患者さんの負担が少ない 検査・治療を提供したい

①診療科の強み・特徴 高齢化と胆膵癌患者の増加にともない、胆膵臨床領域への貢献が重要視されています。そのような中、消化器内科胆膵グループでは、専門的な胆膵内視鏡治療に加えて、胆膵腫瘍に対する抗がん剤治療、急性胆管炎や急性膵炎に対する急性期治療を得意としています。また、早期膵癌発見を目的とした湘南プロジェクトを推進します。

②今後目指していくこと 当科では少数精鋭で多数の困難症例に対応しています。なかでも胆膵グループは、胆膵疾患患者さんの増加により大変活気のある積極的な診療を行っております。今後は、最先端の超音波内視鏡を用いた胆膵内視鏡処置、十二指腸乳頭部腫瘍への内視鏡処置、胆道ラジオ波焼灼術、胆道鏡を当院でも順次導入し、胆膵内視鏡領域の先進的な施設となるべく努力いたします。また、重症膵炎に関する多数の臨床研究を展開してきましたので、当院でも救命救急科の先生方と協力して急性膵炎、重症膵炎の中心的施設となれるよう環境を整備してまいります。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
日本内科学会総合内科専門医／日本消化器病学会 専門医、指導医／日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医、Fellow of JGES (FJGES)／日本肝臓学会 専門医／日本消化管学会 胃腸科専門医／日本救急医学会 ICLSインストラクター／日本内科学会認定 JMECCインストラクター／日本胆道学会 指導医／日本膵臓学会 指導医／日本腹部救急医学会 腹部救急認定医・教育医／日本医師会認定産業医

③地域の先生方へのメッセージ 地域の先生方との連携は患者さんのためにも重視しております。当院と付属八王子病院で進めてきた地域医療機関との連携をさらに推進して参ります。胆膵疾患は症状が出にくいことから、進行・重症化してから発見される傾向があります。また、内視鏡で直接観察できない臓器であり、診断・治療には高い技術を要し、かつ患者さんに負担をかける検査が多いのが現状です。最近の内視鏡機器の進歩は目覚ましく、安全で有用な検査が開発されています。新たな技術と処置具により侵襲性の低い処置を導入して参ります。エコー検査での主膵管拡張、膵のう胞、急な糖尿病の悪化、腫瘍マーカー・膵酵素上昇など早期膵癌の懸念事項があるときにはぜひご紹介ください。また、十二指腸乳頭部腫瘍、急性膵炎、慢性膵炎の診断治療にも豊富な経験があります。地域の中核病院として、胆膵疾患だけでなく、消化器内科疾患全域にわたり適切に対応させていただきます。

消化器内科 教授

岩崎 栄典



第一線の先生方と ジェネラリスト集団の力を融合させ 診療連携の深化を

①診療科の強み・特徴 当科は、腎疾患・内分泌疾患・糖尿病という三つの領域において、多様な病態に対応できるジェネラリストの集団として、科学的知見に基づいた高度な診断と治療を実践している点が大きな強みです。特に糖尿病診療においては、大学病院としての使命のもと、新たな技術や新薬を積極的に導入するとともに、領域横断的な連携を重視した診療を展開しています。糖尿病と腎疾患の両方を一つの診療科内で一貫して対応できる体制は、全国的にも稀であり、柔軟かつ多角的な診療体制の構築は、当科ならではの大きな特徴です。

②今後目指していくこと 今後は、地域に根ざした医療を大切にしながら、グローバル水準の医療にも近づけるよう、研究と診療の連携をさらに強化していきたいと考えています。

特に私の専門である糖尿病領域においては、持続血糖測定(CGM)やインスリンポンプなどから得られるデータの有効活用に加え、AI技術の導入にも積極的に取り組む方針です。こうした先進技術を活かすことで、血糖変動に関する病態の解明や治療に新たな視点を取り入れ、

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
日本内科学会認定内科医／日本内科学会内科指導医／日本内科学会総合内科専門医／日本糖尿病学会専門医／日本糖尿病学会指導医／日本旅行医学会認定医

【研究領域】私の専門は糖尿病学および腎臓病学であり、特に「糖尿病と腎機能障害の接点」に焦点を当てた臨床・研究に長年携わってきました。これまで、糖尿病透析患者における血糖管理の最適化や、GLP-1受容体作動薬・SGLT2阻害薬などを研究し

てきました。現在は加齢に対する血糖変動の影響の解明にも取り組んでいます。日常診療の中にある「なぜ？」を起点に、臨床現場の課題解決に資する研究を、地域の医療機関などと連携して展開していきたいと考えています。

腎内分泌代謝内科 教授

豊田 雅夫



より精緻で個別化された診療を地域の患者さんに提供していきたいと考えています。

③地域の先生方へのメッセージ 糖尿病、内分泌疾患、腎疾患における地域医療連携の鍵は、相互信頼に基づく情報共有にあると考えております。そのためには、先生方との日常的な「顔の見える」コミュニケーションが非常に重要です。特に糖尿病性腎症や慢性腎臓病(CKD)に関しては、各自治体において重症化予防が重要課題とされており、私たちもセミナーや勉強会などを通じた情報発信に加え、気軽にご相談いただける体制づくりに努めてまいります。

先生方は、患者さんを最も身近で診ておられる第一線の存在であり、その現場からのご意見やご要望は、私たちにとって何よりも貴重です。そうした声の的確かつ迅速にお応えできるよう力を尽くし、課題解決に向けた対応力をさらに高めながら、糖尿病性腎症を含む診療連携の一層の深化を図り、共に地域医療を支えていきたいと考えております。

地域の先生方との連携を深め 地域全体の医療レベル向上と 即時対応を可能に

リウマチ内科 教授
奥 健志



①診療科の強み・特徴 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE）など症例数の豊富な、そして重症度の高い疾患を中心に、高度な専門性を生かして地域医療に貢献することを目指しています。またチーム内では、誰もが気軽に相談できるオープンな環境を整備しています。これにより、患者さんや地域医療機関からの多様な要望に迅速かつ柔軟に対応できる体制が強みです。

②今後目指していくこと ①地域との連携をさらに強化し、役割分担を確立していくことで、効率的で質の高い医療を目指します。②「社会的寛解（単に疾患の進行を抑えるのみでなく周辺症状の改善や社会的サポートを充実させて社会での活躍ができる状態に整える）」の実現を重視し、疾患の活動性を抑えるだけでなく、患者さんが社会で活躍できるようQOL向上を目標に掲げます。③臨床現場での課題を直接的に研究に反映し、地域医療と密接にリンクしたシームレスな臨床・橋渡し研究を積極的に展開します。

③地域の先生方へのメッセージ リウマチ性疾患は、的確な診断

やコンサルトの適切なタイミング、安定したフォローアップが求められます。これらの情報を定期的な研究会や講習会で共有するとともに、前任地で作成していた「リウマチ・膠原病疾患診療マニュアル・フローチャート」をアップデートし、地域の先生方に周知するなどして適切なタイミングでの紹介につなげたいと考えています。また、短期入院による疾患教育や特殊検査の受け入れ体制も整備し、より円滑な医療連携を目指します。

今後は一層地域の先生方との協力を深めていきたいと考えています。これまで北海道や相模原において、地域の一般内科や整形外科の先生方でも診療が可能な環境を整え、専門医との連携を促進するアプリケーション開発や診療マニュアル作成を行ってまいりました。検査や診療方針について気軽に相談できる関係づくりを進めるとともに、地域全体の医療レベル向上と臨床疑問への即時対応を可能にするシステム作りを推進します。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
リウマチ指導医・専門医／老年医学会指導医・専門医／アレルギー学会専門医／内科学会指導医・専門医・認定医／臨床免疫認定医／血栓止血学会認定医

【研究領域】全身性エリテマトーデス（SLE）と抗リン脂質抗体症候群における臨床・基礎研究、疾患を忘れるほどの深い社会的寛解の実現を目指した治療法の確立、関節リウマチにおける病態解明と標的治療の開発、グルコルチコイドに依存しない膠原病

治療の推進、間質性肺疾患の診断・治療に特に注力してまいりました。今後も地域の臨床に根ざした研究を積極的に展開していきます。

頭頸部癌に加え 耳科・聴覚分野の充実で 地域の健康長寿に寄与する

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授
和佐野 浩一郎



①診療科の強み・特徴 耳鼻咽喉科・頭頸部外科は呼吸、咀嚼、嚥下といった生物として基礎となる機能に加え、聴覚・平衡・嗅覚・味覚などの感覚器機能や発声機能といった毎日の生活の中でとても重要な機能を扱う診療科です。当診療科にはそれぞれを専門とする医師が所属しており、互いに連携を取りながら診療をおこなうとともに、新しい治療法を積極的に取り入れています。

②今後目指していくこと 前任の領域主任である大上研二教授（現医学部長）は頭頸部癌を専門としていたことから、頭頸部癌の診療体制は充実したものになっておりますので、それを引き続き発展していきたいと考えています。それに加えて私は耳科・聴覚を主たる専門分野としております。正確な聴力評価に基づいた病態の診断と、その結果に応じた適切な介入により、聴覚の活用を促進

し地域の健康長寿に寄与して参ります。特に神奈川県は人工内耳の浸透率が低いことから、その普及に尽力していきたいと考えております。

③地域の先生方へのメッセージ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般において高いレベルの診療を提供できるように努力してまいります。特に聴覚診療においては正確な診断に基づいて聴力改善手術・補聴器・人工内耳を適切に提案させていただき、状況に応じて紹介・逆紹介を行う聴覚診療ネットワークを構築していきたいと考えております。

患者さんや先生方が少しでもご不安な際には、気軽にご相談いただけるように地域の医療機関の先生方と顔の見える関係性を構築していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 耳鼻咽喉科専門医・指導医／日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医・指導医／日本気管食道科学会 気管食道科専門医／日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医／がん治療認定機構 がん治療認定医／日本耳科学会 耳科手術暫定指導医

【研究領域】耳科学ならびに聴覚に関する研究に従事しており、これまで日本人における平均的な聴力像、言葉の聞き取りと聴力検査結果の関係性などを明らかにしてきました。これらの研究成果は高く評価いただいており、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会研究奨励賞・日本医師会医学研究奨励賞・日本耳科学会賞を受賞しました。聴力低下は認知症・うつ・社会的孤立などとの強い関連性が見られており、聴力

低下リスクの軽減や適切な聴覚活用に関する市民に向けた啓発活動を行っております。また新しいエビデンスを明らかにするために、実際にどのような介入が適切なのかということに関する臨床研究を実施しています。国内における多施設研究や国際的な研究において中心的な役割を担っておりますので、最新の知見に基づいた診療を提供できるように努力させていただきます。

1000年以上続く伝統医療と 現代医学を組み合わせ 新しい日本型医療の構築を

東洋医学科 教授
野上 達也



①診療科の強み・特徴 最新の医療情報を踏まえつつ、伝統的な漢方医学を実践していることが当科の特徴、強みです。四診（望診、問診、切診）と呼ばれる漢方医学的な診察を基本に忠実にを行い、その所見をもとに最適な漢方薬を選択して治療しています。薬剤部の協力のもと多種類の医療用漢方エキスを製剤を用いることができること、生薬を用いた煎じ薬での加療ができること、鍼灸治療と連携を取れることも当科の強みです。

②今後目指していくこと 教育・診療・研究の体制強化を目指します。持続的に質の高い漢方診療を提供し、教育、研究を継続するため人員の充実が喫緊の課題です。学生教育・卒後教育に力を入れ、次世代を担う若い人材を育成していきたいと考えています。診療面ではよりいっそう、幅広い診療科からの依頼を受け入れ、他科の診療を補完することで、本院全体の診療体制の充実に貢献したいと考えます。また、昨今急激に進歩しているAIなどのデジタルトランスフォーメーション（DX）を診療や研究、教育に取り入れる漢

方DXにも積極的に取り組んでいく所存です。

③地域の先生方へのメッセージ 「どのような患者を紹介してよいかわからない」という声をいただくことがあります。基本的には現代西洋医学的なアプローチでは十分な治療効果を得られない病態には、漢方医学的な治療を試みる価値があると考えています。医学的に重症ではなくとも、患者が苦痛に感じ、困っていることがあれば、ぜひお気軽にご相談ください。また、地域で漢方医学を診療に取り入れていらっしゃる先生方と連携し、当院からの逆紹介も積極的に増やします。

わが国で1000年以上の長きに渡って育まれてきた伝統医学を、現代医学と最適なバランスで組み合わせ、新しい日本型医療を構築したいと考えております。地元神奈川県での医療に漢方医学を通じて貢献できるよう尽力致しますので、お気軽にお声がけいただき、先生方と密な連携を取らせていただければ幸いです。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
日本東洋医学会漢方専門医・指導医／日本内科学会総合内科専門医／日本リウマチ学会リウマチ専門医／日本漢方生薬ソムリエ協会漢方生薬ソムリエ（初級）

【研究領域】力を入れている課題は「安全で有効な漢方診療」の実践です。「安全な漢方診療」では、オウゴン（黄芩）を含む漢方薬による薬剤性間質性肺炎や薬物性肝障害に関する研究などを行ってまいりました。「有効な漢方診療」では、認知症を持つ高齢者

の行動心理症状に対する加味帰脾湯の有効性の研究などを行っています。また漢方医学的な診療や教育、臨床研究、学習者の指導などをDXによって充実させる研究も行っています。

患者さんの健康概念を大切に 最良の診察と口腔ケアを 提供したい

歯科口腔外科 教授
青木 隆幸



①口腔外科の強み・特徴 医学部付属病院の口腔外科という特徴を生かし、関連各診療科の協力のもと医療安全に配慮した最良の診療の提供に努めています。とりわけ、口腔腫瘍、重症歯性感染症で多くの診療実績があり、最近では顎変形症症例も急激に増加しています。また、周術期口腔機能管理（口腔ケア）業務の充実を図り、当院で治療を受ける全ての患者さんの支持療法に貢献できるよう心掛けています。

②今後目指していくこと 患者さんの健康概念が多様化し、個人や社会の価値観を反映したValue Based Medicineの実践が求められています。価値の高い医療を提供するため、当院では本年度から周術期センターを設置しました。当科も口腔ケアの分野で参加しており、合併症の軽減・抑制に寄与できるようサポートして参ります。また高齢化社会を反映し、口腔がん患者さんが増加しています。患者さん・ご家族のご希望・価値観を反映しながら、医療安全に配慮し、各患者さんに適した最善の治療を選択する基準作りが

必要です。関連部署と協力し実践できるよう努めて参ります。

③地域の先生方へのメッセージ 当科は毎年、「東海大学医学部口腔外科学教室と近隣歯科医師会との懇談会」を開催しています。この会には、県西部の11歯科医師会が参加しており、顔の見える関係の構築に努めています。また、各歯科医師会が主催する講演会などにも積極的に協力し、診療科全員で参加しています。お陰様で、当科の紹介患者は病院全体の20%弱を占めており、全国でも有数の患者数を誇っています。今後は、近隣医師会の先生方とも積極的に連携を図り、地域医療に貢献して行きたいと考えています。

先生方のなかには、口腔外科に馴染みのない先生もおられるかと存じます。当科は、一般歯科では行えない口腔内病変を治療しており、県西部唯一の3次医療機関として緊急時にも対応できる体制を整えています。重篤な疾患でも、関連他科と連携を取りながら診療していますので、お困りの際は遠慮なくご連絡ください。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医、日本癌治療学会認定医（歯科口腔外科）

【研究領域】当科は、全国でも有数の口腔がん診療施設です。関連各科と密に連携し、医療安全に配慮した診療を行っています。公的研究費を複数取得し、豊富な臨床検体を用いて、基礎・臨床研究で多くの成果をあげています。近年は、顎変形

症の治療にも力を入れ、近隣の矯正歯科などと病診連携を図り、急激に患者数が増加しています。また、県西部で数少ない日本顎関節学会専門医が在籍しており、近隣医療機関で治療が困難な顎関節疾患の治療にあたっています。

がん薬物療法の専門科として 地域の先生方との連携で がんゲノム医療を推進したい

臨床腫瘍科 教授

西田 尚弘



①診療科の強み・特徴 当科は、がん薬物療法を専門に担当する診療科として、2025年4月に新設されました。がん患者さんの治療成績の向上と生活の質(QOL)の改善を目指し、当院と地域のがん診療の質の向上に貢献することを目標としています。また、標準治療が困難な患者さんに対しては、がんゲノム医療の活用に積極的に取り組み、患者さん一人ひとりに最適な治療法を見出すことを目指しています。その一環として、がん遺伝子パネル検査の活用を推進し、個別化医療の実現に力を注いでいます。

②今後目指していくこと 目下の重点課題として、がんゲノム医療の充実と新たな標的治療の開発に努めてまいります。「がん遺伝子パネル検査」は2019年の保険償還以降、10万人をこえる患者さんが受けていますが、その実施体制には施設間の格差があり、均てん化にはまだまだ課題が残されています。私たちは、より広い医療圏の中で、この検査を活用したゲノム医療および高度な薬物療法を実践し、治療成績の向上に貢献していきたいと考えています。

③地域の先生方へのメッセージ 県西部を中心に、より広い医療圏から来られる方々に、安心して外来での抗がん剤治療を受けていただくため、地域の在宅診療医の先生方と積極的に交流を図り、患者さんのQOL向上に寄与できるよう努めてまいります。またがんゲノム医療の均てん化の実現に向け、積極的な情報発信を通じて理解と活用を広げていきたいと考えています。

昨今、がん治療薬の種類や使用法は複雑化しており、適切な治療を行うためには高度な専門知識が求められる場面が増えていきます。臨床腫瘍科では、各診療科との密な連携のもと、最先端のがん薬物療法を提供することを目指していきます。また、治療に対する姿勢や考え方は患者さん一人ひとりと異なります。副作用とどのように向き合うか、QOLにも十分に配慮しながら、患者さんと丁寧に相談を重ね、最適な治療戦略を共に考えていきたいと思っています。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
がん薬物療法専門医

【研究領域】これまで、消化器がんを中心に、さまざまな薬剤開発に関わる臨床試験や基礎研究に携わってきました。がんセンターや大学病院で培った豊富な臨床経験を活かし、地域におけるがん治

療のさらなる推進に努めていきたいと思っています。また、がん遺伝子パネル検査の普及を通じて、がんゲノム医療の推進にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

小児に対する造血細胞移植で 世界最高水準の実績を生かし 個々のニーズに応じた支援を実現する

小児科 教授

山本 将平



①診療科の強み・特徴 小児科は開院以来、「本邦における小児に対する造血細胞移植治療の中心的役割」を担ってきました。造血細胞移植黎明期から現在まで約600例の造血細胞移植の実績があります。本邦で初めて臍帯血移植に成功したのも本科です。特に、造血不全症や先天性代謝異常に対する造血細胞移植において国内最多の症例数と世界最高水準の治療成績を有しています。小児がん治療も血液腫瘍性疾患に加えて、ほぼ全てのがん種に対する治療実績を有しています。

②今後目指していくこと 昨今、若年成人(AYA)世代がん患者さんに対する診療支援体制の構築が重要視されています。小児外科、血液腫瘍内科、整形外科、脳神経外科と連携して、15歳から20歳前後の患者さんのがん治療を行うと同時に、就学、就労、妊孕性温存など社会生活上重要と考えられる課題について個々のニーズに応じた積極的な支援を行います。また入院中、退院後も孤立することなく生活できるような診療体制構築を目指しています。

③地域の先生方へのメッセージ 神奈川県西部地区で小児がんを治療できる施設は当院しかありません。全ての患者さんを遅滞なく受け入れ、元気になってご家庭に帰れるよう努力しますのでぜひお気軽にご紹介ください。また医療連携が更に円滑になるよう、地域の先生方と勉強会や研究会を開催し、顔の見える関係を構築したいと考えています。

小児がん患者さんは、身体診察だけで小児がんを疑うことは困難なことが多いのが特徴です。患者さんの症状や状態が「何かおかしいな」と思われた場合には、遠慮なくご紹介ください。各種精査を行い、結果等を速やかにご連絡いたします。急を要する状態である場合は、病院代表にお電話いただき、地域連携室または小児科外来に繋いでいただければ、経過等確認させていただき対応致します。治療が終了し、退院した患者さんにつきましては逆紹介させていただきますので、感冒や予防接種など一般的な診療のご対応をお願いいたします。経過等ご不明な点がございましたら遠慮なくご連絡ください。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】日本小児科学会 専門医・指導医／日本小児血液・がん学会 専門医・指導医／日本血液学会 専門医・指導医／日本造血・免疫細胞療法学会 移植認定医／日本輸血・細胞治療学会 輸血認定医／日本輸血・細胞治療学会 細胞治療認定管理師／日本がん治療認定機構 がん治療認定医／日本血栓止血学会 認定医

【研究領域】再発小児急性性リンパ性白血病などの予後不良な疾患に対する新規薬剤を用いた治療法の開発を行っており、AYA世代がん患者支援にも積極的に取り組んでいます。研究においては、血液疾患iPS細胞を用いた新規治療薬の開発などに加

え、難治・希少性疾患の治療成績改善を目的とした新規治療法の開発などの臨床研究にオールジャパンの代表として取り組んでいます。また、良性疾患に対する造血細胞移植成績の解析も積極的に行っています。

膵臓・胆道疾患センターを開設し 組織力を生かして 高度な医療の提供に貢献

病理診断科 教授

眞杉 洋平



①診療科の強み・特徴 当科の統括する病理診断センターでは患者さんから摘出された組織、細胞の全てを診断しています。手術時に一部の組織あるいは得られた液状検体を短時間に診断する術中迅速組織診断・迅速細胞診断を診療日に毎日受け付けています。年間で組織診断として約17,000件、細胞診断として約12,000件の実績があり、これは日本の大学病院の中でもトップクラスです。病理診断管理加算Ⅱを満たし、全ての組織をダブルチェック体制で診断していること、各病理診断医が専門とする領域を有し、それぞれ臨床各科に対応していること、東海大学医学部付属病院の豊富な症例を基盤とした病理診断の高いスキルを有していること等が特徴です。診断には、免疫組織化学やin situ hybridization、電子顕微鏡検査を積極的に取り入れています。また、がんゲノムエキスパートパネル、病理外来を担当しています。

②今後目指していくこと 前任の中村直哉教授が注力してこれれた血液腫瘍の診療・研究の強みを堅持しつつ、難治がんの代表であ

る膵がんの分野にも注力していきたいと考えています。診療としては、膵臓・胆道疾患センターと連携して、早期診断や正確な診断、分子診断の推進に貢献します。研究面では、病理検体の包括的な分子病理学的解析を通じて膵がんの新規治療法、バイオマーカー、予防法の開発に繋がる研究成果を創出します。また、全身諸臓器から得られる超微量の細胞・組織あるいは液状検体を用いた新規診断法の開発にも取り組みます。**③地域の先生方へのメッセージ** 当院では2024年4月に膵臓・胆道疾患センターを開設し、この領域のエキスパートが在籍する消化器外科・消化器内科・病理診断センター等を中心に、関係各部門と密に連携し、組織力を結集して治療や研究に当たっていきなと思います。また、悪性の疾患だけでなく、胆石や胆管炎、膵炎といった良性の疾患に対しても、高度な医療の提供に貢献します。膵胆道系疾患で、診断や治療に難渋するような症例、遺伝子検査を希望される患者様などがいらっしゃいましたら、当センターへ是非ご紹介ください。

【主な「指導医」「認定医」「専門医」資格】
病理専門医／細胞診専門医／分子病理専門医／病理専門医研修指導医／日本膵臓学会認定指導医

【診療・研究領域】診療では、専門は肝胆膵領域の病理診断を専門としています。診断コンサルテーションや症例検討会等における病理コメンテーターの豊富な経験を有しており、膵癌取扱い規約委員を2014年より務めています。また、肝胆膵領域の人体病理学的研究を長年行っ

ています。ダナ・ファーマーがん研究所留学時は、大腸がんに対する免疫反応とその制御法についての研究に従事。現在は、膵がんにおける分子学的な腫瘍不均一性、免疫反応、線維芽細胞を中心とする腫瘍微小環境を包括的に解析し、膵がんの克服を目指した分子病理基盤の研究と早期診断法の開発に注力しています。

新 セ ン タ ー 紹 介

2025年4月から本病院に4つのセンターを新設しました。
各センターの概要をご紹介します。

●炎症性腸疾患(IBD)センター

神奈川県西部から静岡県東部地域を管轄する炎症性腸疾患(IBD)医療の拠点として本センターを新設しました。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患は20～30歳代の若い患者さんを中心に増えています。学業や就労、妊娠や出産と様々なライフイベントと時期が重なることもあり、患者さん一人ひとりによった治療戦略を立て、「病気をコントロールし、より充実した生活を送る」ことができるよう全力で取り組む所存です。

患者さんが自身の疾患を理解し、適切な医療を受ける権利を尊重する「患者アドボカシー」の理念のもと、内科・外科・小児科・産婦人科などの専門医の他、多職種が連携し、皆様の健康を守り、地域に安心と信頼を届けることが私たちの使命です。今後も当該地域の医療機関との連携を強化し、IBD治療の最前線を担う決意で診療にあたっております。

●循環器疾患センター

循環器病は、患者数が増加し続けている一方、治療法の進歩も速いのが特徴です。本センターでは、急性期から慢性期までのさまざまな疾患に幅広く対応します。急性疾患への24時間365日緊急対応、最新情報に基づく先端治療の提供、心不全などへの多職種連携での診療・回復期サポートを主眼とし、「最善の治療は何か?」を追求します。循環器内科・心臓血管外科の専門医によるハートチームに加え、看護師、栄養士、薬剤師、技師など多職種が連携する先進的な体制で、質の高い医療を効率的に提供します。

●感覚器疾患センター

超高齢社会において健康寿命を延ばすため、感覚器疾患に対する専門的な医療提供の重要性が高まっています。本センターは、聴覚・視覚をはじめさまざまな感覚器に生じる疾患への専門医療提供を目的として設立しました。最先端医療の提供、診療ネットワークの整備、人材育

成、相談支援、臨床研究を主眼とし、地域の医療機関との連携を通じた質の高い感覚器診療を目指します。耳鼻咽喉科医師を中心とした感覚器疾患の専門家(医師・コメディカル)で構成されたチームがー丸となって診療にあたり、患者さんをサポートいたします。

●乾癬・アトピーセンター

乾癬・アトピー性皮膚炎は、皮膚のみならず全身にさまざまな併存症を伴う慢性疾患です。本センターは、これらの慢性皮膚疾患に対し、皮膚を入り口として地域の皆さんの健康寿命を伸ばすことを目的として設立しました。皮膚の治療のみならず、全身疾患の未病やコントロールを通して、効率的で質の高い診療を提供します。要望いただければ、本センターにて検査や他科・センターの診療予約も行い、効率よく受診いただけるよう取り計らいます。各診療科や栄養科などと連携し、患者さん一人ひとりに合わせて多角的にアプローチします。

2025年4月より、超音波検査サービスの提供を開始しました

■**お申し込み方法** 医療連携室にFAX(0463-93-1125)にてお申し込みください。内容を確認のうえ、当院より予約票をFAXいたします。届いた書類(予約票、検査注意事項)は患者さんへお渡しください。

■**検査結果のご連絡** 検査結果は1週間以内に郵送いたします。なお、画像データはCD-Rで提供いたします。

■**メリット** 当院の生理検査室は「国際規格ISO 15189」の認定を受けており、高い臨床検査品質と能力を有しております。また超音波検査士28名が、最新かつ高性能な装置を使用し、検査を実施しています。検査結果は、日本超音波医学会認定専門医・指導医の資格を持つ医師が判読しています。また患者さんをご紹介いただいた際には、専門治療に円滑に移行できます。



■ご依頼時の注意点

検査部位について、下表からいずれか1つを選択してください。

	上腹部(肝・胆・膵・脾)	上腹部+腎	腎のみ
腹部領域	腎臓ドブラ	下腹部(膀胱+前立腺または子宮・卵巣)	腎+下腹部
表在領域	乳腺	甲状腺	その他表在
血管領域	頸動脈	下肢静脈	下肢動脈
	その他血管		

※「その他表在」と「その他血管」をご希望の場合には、部位の記載をお願いいたします。なお、心臓超音波検査は対応いたしません。

■患者さんにお伝えいただきたいこと

予約当日は、1階の「紹介・初診窓口」にお越し頂くようお願いください。検査は専用枠を設けており、待ち時間なく受けられます。

各部位の実施時間と曜日は以下のとおりです。

■腹部：14：00(月～金) ■表在：15：00(月～金)

■血管：14：30(火、木、金のみ)

紹介患者さんのご予約方法

■お申し込み方法

検査や受診などで患者さんをご紹介いただく際にはお電話にてご連絡ください。その後、「診療情報提供書(紹介状)」と「予約申込書」を医療連携室までFAXでお送りください。

受領確認後、「予約票」をFAXにてお送りいたします。検査によってはご案内とあわせて同意書を送付する場合がございます。同意書の内容を患者さんにご説明のうえ、署名・捺印後、速やかに送付ください。原本は患者さんにお渡しいただき、検査当日に持参するようお願いください。

・診療情報提供書(紹介状)



https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp/institution/appointment/pdf/shinryou_teikyuu.pdf

・予約申込書



https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp/institution/appointment/pdf/shinryou_yoyaku.pdf

診療情報提供書は、貴院書式でも結構です。その際には、患者さんに関する下記の項目を記載ください。

氏名(フリガナ)	電話番号
生年月日	来院希望日
性別	ご住所
当院受診歴の有無	受診希望の診療科(医師を指定する際は医師名も記載)

■ご予約受付時間

平日(月～金) 8時～18時

土曜(第1・3・5) 8時～15時

※休診日(日曜日・祝日・土曜日(第2・4)・12月29日～

1月3日(年末年始))を除く

※受付時間外にFAX頂いた際には、翌診療日の対応となります。診療科によっては、お申込み当日中にお返事できない場合があります。

■検査結果について

検査終了後1週間程度で各医療機関に郵送いたします。画像データはCD-Rで提供いたします。

■予約可能な項目

一般外来	初診	再診
	単純CT	造影CT
	冠動脈CT	MRI
各種検査	MRA	MRCP
	造影MRI	核医学検査
	筋電図検査	超音波検査

※検査によって紹介状に記載頂きたい事項が異なります。また、同意書の事前取得が必要となる検査もありますので、必ず当院HPをご確認ください。

■患者さんにお伝えいただきたいこと

予約当日は以下のものを持参のうえ、1階の「紹介・初診窓口」にお越し頂くようお願いください。

保険証(各医療証)またはマイナンバーカード	
当院診療カード*	診療情報提供書(紹介状)
お薬手帳(薬の説明書)*	予約票
画像データ(DICOM形式)	検査結果等*
医療連携手帳	母子手帳*

※はお持ちの方のみ

お申し込み・お問い合わせ

医学部付属病院 医療連携室

TEL: 0463-93-8495 (直通)

FAX: 0463-93-1125